



2018年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年2月1日

上場会社名 シミックホールディングス株式会社
 コード番号 2309 URL <http://www.cmicgroup.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 中村 和男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員CFO (氏名) 望月 渉

TEL 03-6779-8000

四半期報告書提出予定日 2018年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2018年9月期第1四半期の連結業績(2017年10月1日～2017年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年9月期第1四半期	16,637	8.1	1,013	102.0	1,035	67.1	544	170.9
2017年9月期第1四半期	15,389	5.2	501	2.7	619	18.3	200	1.5

(注) 包括利益 2018年9月期第1四半期 660百万円 (29.9%) 2017年9月期第1四半期 508百万円 (56.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年9月期第1四半期	29.09	
2017年9月期第1四半期	10.74	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2018年9月期第1四半期	68,533	23,838	33.7	1,235.09
2017年9月期	65,605	23,608	34.9	1,222.37

(参考) 自己資本 2018年9月期第1四半期 23,111百万円 2017年9月期 22,867百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年9月期		5.00		22.50	27.50
2018年9月期					
2018年9月期(予想)		5.00		22.50	27.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2017年9月期 期末配当の内訳 普通配当20円00銭 記念配当2円50銭(創業25周年記念配当)

3. 2018年9月期の連結業績予想(2017年10月1日～2018年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	31,750	0.0	1,720	9.6	1,550	17.9	570	6.8	30.47
通期	70,500	8.0	4,300	10.3	3,930	5.3	1,700	9.6	90.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2018年9月期1Q	18,923,569 株	2017年9月期	18,923,569 株
期末自己株式数	2018年9月期1Q	211,068 株	2017年9月期	216,028 株
期中平均株式数(四半期累計)	2018年9月期1Q	18,711,194 株	2017年9月期1Q	18,703,759 株

(注) 期末自己株式数には、株式給付信託(J-ESOP)が保有する当社株式(2018年9月期1Q 175,000株、2017年9月期 180,000株)が含まれております。また、株式給付信託(J-ESOP)が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(2018年9月期1Q 176,333株、2017年9月期1Q 184,000株)。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnet及び当社ウェブサイトで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(セグメント情報)	9
3. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

[当連結会計年度の概況]

当社グループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する当社グループ独自の事業モデルであるPVC (Pharmaceutical Value Creator) を展開しております。CRO (医薬品開発支援) 事業、CDMO (医薬品製剤開発・製造支援) 事業、CSO (医薬品営業支援) 事業、ヘルスケア事業において、製薬企業の開発、製造、営業・マーケティングのバリューチェーンを広範に支援しております。また、IPM (Innovative Pharma Model) 事業では、当社グループが保有する製造販売業等の許認可 (知的財産) とバリューチェーンを組み合わせた新たなビジネスソリューションを製薬企業等に提供しております。

医薬品業界においては、“患者により適した医療”の提供に向けて、技術革新や産官学連携による革新的医薬品の創出が期待される一方で、2018年度の薬価制度改革において、新薬創出・適応外薬解消等促進加算制度の抜本的見直しや長期収載品の薬価等の見直し、費用対効果評価の試行的導入が骨子として示されるなど、医薬品産業の生産性や効率性の向上が求められております。厚生労働省が2017年12月に改訂した「医薬品産業強化総合戦略」においても、①日本発のシーズが生まれる研究開発環境の改善、②薬事規制改革等を通じたコスト低減と効率性向上、③医薬品の生産性向上と製造インフラの整備、④適正な評価の環境・基盤整備、⑤日本発医薬品の国際展開の推進、⑥創薬業界の新陳代謝を促すグローバルなベンチャーの創出、⑦医療用医薬品の流通改善への一層の対応の7項目が取組みとして挙げられ、医薬品産業が、長期収載品に依存するモデルから、より高い創薬力を持つ産業構造へ転換することを促す内容となっております。これにより、製薬企業は、ビジネスモデルの転換も視野に入れながら、イノベーションの推進と医療の質の向上に資する革新的医薬品の創出に向けて、研究開発活動を一層強化するとともに、生産性や効率性の更なる向上のために、アウトソーシングの活用を加速させるものと思われま

当社グループは、この変革期にある医療・医薬品産業において持続的な成長を実現するための取組み「Project Phoenix」を進めております。2015年9月期に開始したProject Phoenix 1.0では、赤字事業の解消とコスト構造改革に道筋をつけ、グループの原点である創業スピリッツを表す企業理念「CMIC'S CREED」を制定しました。2016年9月期下期からはProject Phoenix 2.0として、医療・医薬品産業の変革にスピーディに対応するため、アジャイル経営システムの構築とともに、当社グループが保有するすべてのバリューチェーンの支援が実施可能な体制と製造販売業等の許認可 (知的財産) とを組み合わせた、新たなソリューション (IPM) の提供を推進しております。

[売上高及び営業利益]

当第1四半期連結累計期間においては、堅調な受注を背景にCRO事業が伸長したこと等により、売上高は16,637百万円 (前年同期比8.1%増)、営業利益は1,013百万円 (前年同期比102.0%増) となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

<CRO事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	7,677	9,012	+1,334 (+17.4)
営業利益又は営業損失 (△)	1,157	1,812	+655 (+56.7)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品開発支援に係る業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、抗がん剤や再生医療等製品など、高度化する開発ニーズに対応するため、専門性と品質の更なる向上を目指し、人材育成を強化しております。

臨床業務においては、堅調な引合いに応じた人材の確保に努めるとともに、臨床研究及びデータベースを活用した市販後支援ビジネスの検討を進めております。

非臨床業務においては、日米でのシームレスな医薬品開発ニーズに対応するため、シミックファーマサイエンス株式会社及び米国CMIC, INC. の連携を強化し、核酸医薬や再生医療など次世代医薬品の創薬支援に取り組んでおります。

売上高及び営業利益につきましては、新規受注及び既存案件が堅調に進捗したこと等により前年同期を上回りました。

<CDMO事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	3,233	3,586	+353 (+10.9)
営業利益又は営業損失 (△)	△192	△184	+7 (-)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品製剤開発・製造支援に係る業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、製剤化検討から治験薬製造、商用生産まで医薬品製造に係る総合的なサービスを通して、生産性と効率性を追求したローコスト生産体制の確立に取り組んでおります。また、足利工場において、2018年10月の本格稼働に向け新注射剤棟の立上げに注力しております。

売上高につきましては、新規受注及び既存案件の受託生産が堅調に進捗したこと等により、前年同期を上回りましたが、足利工場新注射剤棟の立上げ費用が先行的に発生していること等により、前年同期並みの営業損失を計上しました。

<CSO事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	1,711	1,675	△35 (△2.1)
営業利益又は営業損失 (△)	83	56	△27 (△32.6)

当事業においては、主に製薬企業の営業・マーケティング支援に係る業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、シミック・アッシュフィールド株式会社において、MR (医薬情報担当者) 派遣業務の受注力強化及び既存案件の着実な進行に取り組むとともに、顧客ニーズに対応した、多様なサービスを組み合わせた総合的なコマーシャルソリューションの提供を進めております。

売上高及び営業利益につきましては、MR派遣業務のアウトソーシングニーズが調整局面にあることから、前年同期を下回りましたが、足元の受注は回復基調にあります。

<ヘルスケア事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	2,056	1,739	△317 (△15.4)
営業利益又は営業損失 (△)	194	149	△45 (△23.4)

当事業においては、SMO (治験施設支援機関) 業務、ヘルスケア情報サービスなど、主に医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進のための支援業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、サイトサポート・インスティテュート株式会社において、新規受注の獲得とメディカルコンシェルジュサービス等の新サービス拡充に取り組んでおります。

売上高及び営業利益につきましては、前年同期に取り組んでいた大型プロジェクトの減少等により前年同期を下回りました。

<IPM事業>

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	764	746	△18 (△2.4)
営業利益又は営業損失 (△)	1	△65	△66 (-)

当事業は、当社グループが保有する製造販売業等の許認可（知的財産）とバリューチェーンを組み合わせた新たなビジネスソリューションを製薬企業等へ提供する事業であり、主にオーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）や診断薬等の開発及び販売に係る業務を行っております。

オーファンドラッグ等事業においては、株式会社オーファンパシフィックが、自社開発品を含むオーファンドラッグ等を販売しております。また、海外製薬企業の日本市場進出を支援するなど、IPMプラットフォーム提供を通じたIPM事業の基盤強化に取り組んでおります。

診断薬事業においては、当社グループが腎疾患の診断を目的として開発した腎疾患バイオマーカー（L-FABP）の販路拡大及びプロモーションの強化に努めております。

売上高及び営業利益につきましては、足爪用浸透補修液「ザンミーラネイル」販売に係る費用の計上等により前年同期を下回りました。営業黒字化に向けて、新しいソリューション提供による事業規模拡大に引き続き取り組んでおります。

[経常利益]

当第1四半期連結累計期間の経常利益は1,035百万円（前年同期比67.1%増）となりました。

なお、営業外収益として為替差益及び持分法による投資利益等59百万円、営業外費用として支払利息等37百万円を計上しております。

[親会社株主に帰属する四半期純利益]

当第1四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は544百万円（前年同期比170.9%増）となりました。

なお、特別損失として固定資産除却損等18百万円、法人税等合計475百万円及び非支配株主に帰属する四半期純損失3百万円を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末比で2,927百万円増加し、68,533百万円となりました。これは主に、現金及び預金、有形固定資産の増加等によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末比で2,697百万円増加し、44,694百万円となりました。これは主に、短期借入金及びコマмерシャル・ペーパーの増加、長期借入金の減少等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末比で230百万円増加し、23,838百万円となりました。これは主に、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2017年11月7日に公表いたしました2017年9月期決算短信の連結業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,947	6,209
受取手形及び売掛金	12,989	12,812
商品及び製品	479	489
仕掛品	3,360	3,385
原材料及び貯蔵品	1,603	1,636
その他	3,972	3,939
貸倒引当金	△12	△12
流動資産合計	27,341	28,460
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,850	11,106
土地	6,160	6,175
その他(純額)	11,578	13,212
有形固定資産合計	28,589	30,494
無形固定資産		
のれん	737	649
その他	1,092	1,025
無形固定資産合計	1,830	1,674
投資その他の資産		
投資有価証券	2,878	3,099
敷金及び保証金	1,638	1,635
その他	3,930	3,769
貸倒引当金	△603	△601
投資その他の資産合計	7,844	7,904
固定資産合計	38,264	40,072
資産合計	65,605	68,533

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2017年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,034	865
短期借入金	1,050	2,850
1年内返済予定の長期借入金	2,918	4,295
コマーシャル・ペーパー	3,000	5,000
未払法人税等	1,027	76
賞与引当金	2,317	527
役員賞与引当金	53	-
受注損失引当金	568	541
その他	8,903	11,536
流動負債合計	20,873	25,692
固定負債		
長期借入金	11,930	9,831
退職給付に係る負債	7,068	7,243
その他	2,125	1,927
固定負債合計	21,124	19,002
負債合計	41,997	44,694
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,087	3,087
資本剰余金	7,715	7,715
利益剰余金	11,847	11,965
自己株式	△261	△256
株主資本合計	22,389	22,512
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	663	734
為替換算調整勘定	15	34
退職給付に係る調整累計額	△200	△168
その他の包括利益累計額合計	478	599
非支配株主持分	740	726
純資産合計	23,608	23,838
負債純資産合計	65,605	68,533

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2016年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)
売上高	15,389	16,637
売上原価	12,419	13,065
売上総利益	2,969	3,572
販売費及び一般管理費	2,467	2,558
営業利益	501	1,013
営業外収益		
受取利息	8	1
持分法による投資利益	-	16
為替差益	153	26
その他	18	14
営業外収益合計	180	59
営業外費用		
支払利息	30	28
持分法による投資損失	6	-
その他	24	9
営業外費用合計	62	37
経常利益	619	1,035
特別損失		
固定資産売却損	21	-
貸倒引当金繰入額	70	-
固定資産除却損	9	13
投資有価証券評価損	-	4
特別損失合計	102	18
税金等調整前四半期純利益	517	1,016
法人税、住民税及び事業税	76	77
法人税等調整額	210	398
法人税等合計	287	475
四半期純利益	230	540
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	29	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益	200	544

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2016年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)
四半期純利益	230	540
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9	70
為替換算調整勘定	207	22
退職給付に係る調整額	79	26
その他の包括利益合計	278	119
四半期包括利益	508	660
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	454	665
非支配株主に係る四半期包括利益	53	△5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2016年10月1日至2016年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	CDMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPM事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	7,656	3,214	1,711	2,041	764	15,389	-	15,389
セグメント間の内部 売上高又は振替高	21	18	-	14	0	54	△54	-
計	7,677	3,233	1,711	2,056	764	15,443	△54	15,389
セグメント利益又は セグメント損失(△)	1,157	△192	83	194	1	1,244	△742	501

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△742百万円には、セグメント間取引消去等△6百万円、各報告セグメントへ配分していない全社費用△736百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2017年10月1日至2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	CRO事業	CDMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPM事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	8,974	3,559	1,675	1,681	746	16,637	-	16,637
セグメント間の内部 売上高又は振替高	37	27	-	57	-	122	△122	-
計	9,012	3,586	1,675	1,739	746	16,759	△122	16,637
セグメント利益又は セグメント損失(△)	1,812	△184	56	149	△65	1,769	△755	1,013

(注)1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△755百万円には、セグメント間取引消去等△4百万円、各報告セグメントへ配分していない全社費用△750百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、2017年4月の組織体制の変更に伴い、CDMO事業の一部事業をIPM事業に報告セグメントを変更していることから、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。

3. 補足情報

受注の状況

受注実績

(単位：百万円)

報告セグメントの名称	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2016年12月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)		前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
CRO事業	13,789	51,719	10,479	56,440	43,372	54,935
CDMO事業	3,519	3,593	3,523	3,582	14,695	3,619
CSO事業	1,045	4,929	1,663	3,084	4,386	3,095
ヘルスケア事業	1,999	9,448	1,606	9,054	7,267	9,129
合計	20,354	69,690	17,272	72,161	69,722	70,779

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。
3. CDMO事業の受注残高は確定注文を受けているもののみを計上しております。顧客から提示を受けている年間ベースでの発注計画等は、確定注文とは異なりますので受注残高には含めておりません。
4. 前第1四半期連結累計期間における受注高及び受注残高は、2017年4月の組織体制変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。
5. IPM事業は受託事業と業態が異なるため、受注実績から除外しております。